



How to 地図帳 その①

〔“さくいん”の引き方〕

— ある指導事例をもとにして“さくいん”との出会いを考える —

東京学芸大学名誉教授 次山 信男

① 先生の“身近かな体験”から

ある4年生の教室で、次のような索引指導の授業に出会ったことがあります。

先生が分厚い専門書をかかえて教室に入ってきて、子どもたちに話しはじめました。



『きのうの夜、家で調べ物をしていたら、私の先生であった長坂先生のことで確かめたいことが出てきたの。この本のどのページに書いてあるのかがはっきりしなかったのね。…さあ、それで私はどうしたと思う?…』

日頃から先生の私事に強い関心をもっていたのでしょう。子どもたちはすぐに話の中に飛び込んできます。「はじめの方から調べていった!」「だいたいのページを思い出して調べていった!」

『実はね、この本の終わりの方に“人名索引”(板書)といってね、この本に出てくる重要な人物に関係することがどのページにあるか、その人物ごとにすぐわかるものがついているの。人物の名前が“あいうえお順”に並んでいますね。(実物拡大器で映写)そして、その名前の上に数字が書いてあるでしょう。』「それが出ているページなんだ!」『そうなのです。ですから、長坂先生のところを探すと、“な行・長坂端午・49,50,”(板書)とあります。このページを開けば、知りたかったことが

わかるわけですね。』「便利だなー!」「索引って、わからないことを探し出すっていうことなんだ!」

ここまでは時間にして10分たらずの教師の“出”です。大人である先生が日常的に活用している索引に、子どもたちが出会う“場”を開いているのです。

② 拡大図の柵目の“記号づくり”から

『ところでね、みなさんの持っている地図帳にもこの索引がついているんですよ!』

教師の“出”の効果か、子どもたちは早速手元にある地図帳を開き『おもな地名のさくいん』があることを突き止めていきます。そして、地図帳にある地名索引は、その地名のあるページだけではなく、アイウヤ1 2 3の記号が付いていることに注目し、「これ何だろう?」と、本題に入っていくのです。

ここで、先生は、子どもたちを、地図帳p.6の『さくいんの記号とます目』に向かわせます。

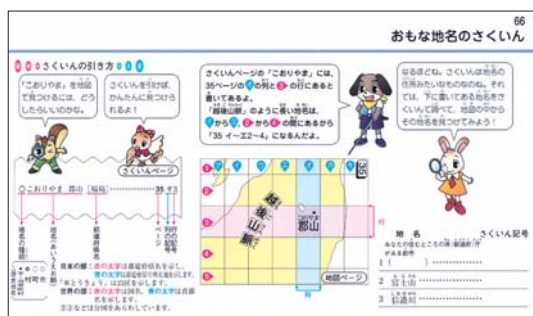
添えられた図幅(渥美半島付近・愛知県)を見れば、確かに細く青い縦と横の線が引かれ、それによる柵目ができています。しかし、そこにある説明だけでは、子どもたちは、柵目とアイウの記



帝国書院『小学生の地図帳』(初訂版) P.6

号と1 2 3の記号との関係がすぐにはみ込めないのです。しばらくすると、p.66の『さくいんの引き方』に立ち戻った子どもが、そこにある説明の、列（縦）と行（横）の交差する枠目が、もしA列と1行であればその記号は“ア1”と表示されるという索引の“仕組み”を突き止めていくのです。

先生はそれを確認すると、p.6に添えられた図幅のそれぞれの枠目に、それに該当する記号を子



帝国書院『小学生の地図帳』（初訂版）P.66

38（拡大図・50万分の1）を開かせて、学校がある“くまがや（埼玉）”の記号37エ2（板書）を確かめさせてから、“地図帳のさくいん”と対応させていきます。「36ウ5です！」（板書）「先生、37エ2は、地図帳の“さくいん”のどこにも出ていません！」「どうしてなんだろう？」

ここで子どもたちは、p.36とp.37、p.32とp.8の図幅をそれぞれ比べてたりしていきながら、よ



帝国書院『小学生の地図帳』（初訂版）P.37

どもたちに書き込ませていきます。

『この地図では“とよはし（豊橋）”（板書）という地名はどこにありますか？ 記号で教えてください。』「あった！」「記号はエ1だ！…6ページだから6エ1だ！」（板書）『もう一つ、“あつみ（渥美）”（板書）という地名はどこにありますか？』「6ア3です！」（板書）「いいです！」

『では、次の7～8ページを開いてください。愛知県全体が出ている地図です。6ページに出ている渥美半島が少し小さくなって出ていますね。この地図の“とよはし（豊橋）”を探して、記号で教えてください。』「8オ4です！」（板書）「えっ、前はエ1だったのに、どうして？」「先生、地図帳の“さくいん”で“とよはし”を引いてみたら、32ウ7でした？」『みなさん、地図帳の32ページのウ7に“とよはし”がありますか（板書）。確かめてみてください。』「あります！」

しかし、子どもたちが見つけた“とよはし”の6ア3や、8オ4は、“地図帳のさくいん”には出ていないのです。ここで子どもたちはそのわけがつかめず、立ち往生するのです。

このようすを見届けた先生は、地図帳のp.37～

うやく日本全体をカバーする地図（基本図100万分の1，北海道200万分の1，沖縄300万分の1）を“さくいん”の対象としているのだと突き止めていくのです。

③ 基礎として息づく指導を

地図帳活用の基礎的な指導として、“地名さがし”をさせながら索引の引き方を指導する例がよく見られます。地図帳にあるマニュアルに沿って手際よく進める教室もあれば、少々時間を取るのだが、そのマニュアルに遊びのクッションを入れて楽しく進めたりする教室も見られます。ただ、その“手際”も“遊び”も、索引の仕組みやその働きが上滑りするようなものであれば、その子にとって地図帳活用の基礎として息づく指導にならないことも確かなことなのです。

ここで子どもたちは、やがて各図幅に引かれた細く青い縦と横の線が“何者”であるかにも、鋭く目を向けていくように思うのですが、いかがでしょうか。